

2009年10月19日(月) 笠岡諸島子ども島づくり会議

掲載新聞スクラップ

10.23 中国新聞朝刊

10.22 山陽新聞朝刊

島の魅力、悩み意見交換

笠岡市「子ども島づくり会議」

白石、真鍋、飛島の中高校生



笠岡市は、笠岡諸島の中高校生が島の未来について話し合う「子ども島づくり会議」を19日、同市笠岡の市民活動支援センターで開いた。子どもたちは、島の魅力や悩みについて意見を話し合った。

白石島、飛島、真鍋島の中高校生6人が参

加。大阪市で設計事務所を経営する町づくりコーディネーター山崎亮さん(36)と、西上ありさん(30)が講師を務めた。山崎さんは、人口減少と少子高齢化が進行している日本の現状を説明。「変化に

中学生が島の魅力や悩みについて意見を交わした島づくり会議

白石中学校3年中川愛さん(14)は「他の島のひとと話すことで、自分の島のいいところや悪いところが気になった。島の未来をどうしていけばいいか自分たちで考えていきたい」と話していた。

島づくり会議は来年1月まで計6回開催し、子どもたちが将来の島のあり方について提言していくという。

(洞井宏太)

10.25 中国新聞朝刊

笠岡諸島の未来 中高校生が描く

笠岡諸島(笠岡市)の中高校生が島の将来像を考える「子ども島づくり会議」がスタートした。地域づくりの担い手育成などが狙い。市の委託を受けたNPO法人かさおか島づくり海社が主催し、本年度中に報告会を開いて提言をまとめる予定だ。

(杉本喜信)

会議は白石島、北木島、大飛島、真鍋島の中高校生13人で構成し、山崎亮さん(36)と兵庫県芦屋市にたち2人のまちづくりプランナーが調査員兼助言者として加わった。10年後の理想の島の姿を描き、大人に求める努力、その後自分たちが担う役割を考える。

第1回は市民活動支援センターで19日にあり中高校生6人が出席した。山崎さんが少子高齢化が進む日本の姿を解説し「変化を先取りする地域づくりをしよう」と呼び掛けた。

参加者は現状を整理するため島暮らしの魅力や悩みをカードに書き出した。活発な

議論や課題や魅力13人へつくり提言 子ども会議



山崎さん(左から4人目)の助言を聞き、島の魅力を書き出す参加者

やりとりが続き「人情や自然が豊か」「学校が少人数で勉強がとく分かる」などの一方「すべりわさが広まる」「船便が少なく料金も高い」など計約120項目の指摘が出た。白石中3年中川愛さん(14)は「いい面ばかりでなく悩みも多い」と話した。本音を話し合っただけで「話したい」と話していた。

会議は、2012年度に策定する第2期笠岡諸島振興計画に意見を反映させる狙いもある。全6回の開催を予定。県の中山間地域魅力づくり支援事業の助成を受け300万円の予算が付いている。

記者手帳

島の子頼もしい郷土愛

笠岡支局

杉本 喜信



古里について生き生きと語る子どもに感心した。七つの島に約2500人が住む笠岡諸島(笠岡市)の「子ども島づくり会議」取材した。

10年後の地域像を描き、将来自分たちが担う役割も考える市のプロジェクト。初回は真鍋島など3島の中高校生6人が暮らした魅力や悩みを出し合った。

「人が優しい」「魚がおいしい」「学校が少人数で勉強がよく分かる」「でも病院や大きな店がない」「船便が少ない。料金も高い」「高校に通いにくい」。

大勢の大人が傍聴する中、約120もの意見が出て、進行役の研究者を驚かせた。私も古里の愛知県の

中国地方の山間部や離島の小規模校では「引っこ込み」に育つてしまっている。大人が考え、地域自ら学校統合を望むケースもある。

島の子どもの堂々とした意見表明ぶりにはそんな懸念も吹き飛ばすパワーを感じた。

まちについて多くを知らないのと気づき反省し、これまでの地域づくりやプラン策定には将来を担う世代を巻き込む工夫が足りなかったのではないかと。

笠岡諸島も少子高齢化に直面している。人口はこの15年で半減。高齢者が6割を占める。会議は現実も見据えた夢と提言をまとめる予定という。